

續博物志

見
順
礼
物
誌
目
録
之
中

香の野山新編の事

滋念洋光の香豆の定規の相辨の事

武列六浦一胆力事

若根志のんまとい力事

西園の商力事

見てはきてもはなすくさぬ事

三浦体ヶ嶋へ後海の事





順じゆん礼物誌れいぶつし目錄之中

高野たかの系譜けいぶの事

徳倉とくくら淨光じゆんくわうの寺てら忍にんの夏なつの相あひま那なの事

武ぶ別べつ六ろく浦うら一いつ見けん乃の事

若わ根こん志しももんんの事

西さい園くわん乃の脚きゃく乃の事

見けんててまままま守まもりりの事

三さん浦うら城じやう乃の臨りん海かいの事



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

[Faint bleed-through text and a red square seal from the reverse side]

石室山金剛峰寺
大伴等制地別
入定入

覽其のくわり
次禮物簿中

○乞の野系信の事

穿の今法所可航所より老なる多きは
野入系下向。物終りありひたるるる野

山の昔向さうの天自所定。弘法大師の地と志

め。敬者まといてあつる流
てがらんあう乃わさしけだ。言堂の

まのやうさめつー。所生儀は乃更由一夜
系信乃らるるまがらるる三途乃者ことと

大御世、佐衛
田本四、百力氏
讚州、多摩郡
屏風、浦人也
泉州、楨尾山寺
るて、落髪して
乃、西野、名、老、御
後、自、改、加、案、延
暦、十、四、年、進、直
於、中、乃、系、又、改
空、三、取
大、師、号、醍、醐、帝
延、喜、長、一、年
十、月、賜、三、證、入、定、入

そのもの三世徳佛
がしとやのるる海とく

九枝ハ
 老人杖頭の
 杖を新平用申
 心は杖ハ物ニ不
 噓も也老人氣
 二老ありそ物
 世の心也杖ハ
 老を云ふ也杖
 の名ハ
 杖云平杖ニ
 於家云十杖ニ
 於朝云七十杖ニ

爲くそあ。孫傍。こ。色難と。是。之。葉
 小乃。び。び。乃。洞。な。お。と。計
 也。と。う。つ。る。も。老。老。と。く。し。れ。年。た。ら。る。迄。
 げ。山。と。お。が。海。と。り。ら。ま。た。ん。う。く。そ。南。
 年。一。思。う。と。立。つ。び。ひ。と。り。の。端。乃。は。え。に。す。が
 口。し。系。信。一。又。室。若。妙。花。院。と。云。寺。小。日
 當。と。く。付。つ。り。住。持。お。ま。色。中。う。れ。ら。る。と。
 老。人。の。系。信。對。勝。也。押。大。師。乃。根。中。と
 爲。く。一。後。波。乃。圓。屏。風。が。浦。よ。弘。法。房。と
 中。法。師。中。の。し。し。し。智。德。世。よ。あ。え。ん。あ。る。あ
 實。八。十。杖。於。朝。四。身。と。二。杖。ツ。ク。廣。ク。ま。ん。也。

弘權化乃人ぞと。のひあ。う。せ。り。然。し。推
 次。天。皇。乃。治。定。延。曆。二。十。三。年。甲。申。乃。年
 又。月。げ。ん。た。う。一。友。原。實。能。大。唐。よ。後
 亦。い。母。よ。弘。法。坊。系。そ。海。り。あ。又。那。と
 唐。乃。十。代。德。宗。白。皇。帝。貞。元。二。十。年。也。此
 毎。か。う。と。う。う。よ。恙。れ。を。比。大。唐。を。弘。法。寺。り。
 惠。果。和。尚。と。し。祖。師。あ。り。密。教。相。慈。乃
 人。也。三。密。の。法。衣。を。所。く。ろ。ひ。あ。つ。り。故。也
 果。地。弘。法。爲。を。世。と。く。其。言。乃。真。哉。と。こ
 い。め。あ。ふ。故。惠。果。房。よ。三。十。人。の。海。中。み。あ

弘法とて申す。密乃法歌と弘
法よ。ゆづり海。宿思なれた。館人の
恨なる。海宿と。或時。果あり。ひて
宿と。宿と。宿と。弘法と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。

弘法とて申す。密乃法歌と弘
法よ。ゆづり海。宿思なれた。館人の
恨なる。海宿と。或時。果あり。ひて
宿と。宿と。宿と。弘法と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。
宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。宿と。

弘法中

當山上分之古跡め古法の學問の次第可有
相續并名室於之所可撰二碩學之住持一別
而兩門是者以碩學之中の總量可令住之
就中於有修學の懈怠而貪寺飲之輩者以
衆評急交可改替其住持者也

慶長十四年十一月廿一日

高野山金剛峯寺元流中

存の法の後の先年の住持也又重の法の法の趣

高野山元流法度

一 換換職之事自今以後碩學之人者知古

未可為三ヶ年の住持但學流之人者可為
一ヶ年之住持者也其外老若之修學衣
躰之威後可守先親事

一 仁和高雄東寺醍醐并高野は五ヶ寺を
改更流可勒事教之修學は旨の法の遺
戒仁門徒之間修學の最初成出可長者不

可亂薦次云云然近年仁和寺高雄東寺醍
醐為本寺之由雖被募其旨遠戒分明上
者法會出仕之時門跡僧正之外任戒薦
可有列座事

一 寺號院号先規振不許事也然近年恣称

寺院甚無謂令停止事

一 灌頂授職之作法或云由緒未寺或云貪

僧結緖瓶執行か客坊奥院木之非庇非

学之宿所灌頂曼供之執乃無先規由堅

令停止事

一 天野明神者高野之法守也祭礼神夏惣

神主社家供僧守先規不可企新儀事先

年定寺法成渡黑京上今度依依寺社之

法度也

右五ヶ條重所相定如件

一 乃乃ぶとく。高云宗の法法智の報さあ

ささしととと。報さしととと。終りあひぬ。夜

ささしととと。報さしととと。終りあひぬ。夜

乃乃色ととと。乃乃色ととと。乃乃色ととと。

乃乃色ととと。乃乃色ととと。乃乃色ととと。

乃乃色ととと。乃乃色ととと。乃乃色ととと。

乃乃色ととと。乃乃色ととと。乃乃色ととと。

乃乃色ととと。乃乃色ととと。乃乃色ととと。

乃乃色ととと。乃乃色ととと。乃乃色ととと。

柿原よ付流山乃名女おしうんまうりふ
中しうげの事た相更らるげさき好乃
嶺年老又女けりるこたなも思ふ今
付く更ら後よさうまうり後こがらうす
夕くありり梅よ花乃免らうくそと
あよめ好の事う雲の障らある月と
うとさうがううううあもりゆれ徳越の
おまうらうとまへん梅乃免よけうと
およだうくさうらうらうらうとさう
とさひまうれらうらうらうらうらう

このり更梅の事うううううう
わもあふ故乃園じあうあひ命の事
うううううううううううう
身玉海さうらう人の神むらう別と
うううううううううううう
河下よ梅りぬ老乃身れううあひ是
さうとととととととととととと
○ 徳倉津光明寺 是乃夏相
んく今あ老徳倉の名取回徳ありな
くゆ脚し相泉谷乃海老の寺立

三九中

天正二年。德念放者よとのとく。高
相也。中。式目と号し。述也。あり。その後。新
式目。乃。他。志。る。と。後。普。光。園
持。政。公。庶。安。又。年。よ。わ。ら。た。め。書。く。と。ら
あ。く。取。と。新。式。目。也。加。と。号。し。と。又。其。後。宗
初。法。師。業。道。に。と。ゆ。法。せ。ら。ま。し。と。と。新
式。今。業。と。し。ら。ら。は。ま。し。と。又。其。乃。え。ん。ま。る。
素。行。天。皇。四。十。年。し。ら。り。天。正。十。九。迄。平。又
百。十。年。也。述。之。乃。法。有。定。と。し。と。事。の。建
治。二。し。ら。り。天。正。十。九。尚。年。迄。三。百。十。六。年。よ

成。れ。と。あ。徳。り。多。し。の。め。げ。中。と。も。あ。り。あ。り
と。し。ら。り。の。あ。り。と。年。志。老。氣。都。へ。の。あ。り
清。水。親。世。書。之。系。傳。せ。し。よ。人。云。今。日。の。時。日。
清。水。寺。よ。し。と。の。て。新。例。乃。中。式。述。之。あ。り
と。の。の。是。の。院。中。即。と。住。持。よ。あ。り。し。て。げ
養。と。尋。ね。ぬ。る。あ。り。よ。清。水。寺。乃。端。主。徳。也
け。の。の。法。功。清。水。寺。の。と。く。本。式。連。弁。と
号。し。し。昔。し。ら。り。毎。月。晦。日。よ。親。ひ。と。宗
祇。也。主。持。院。乃。會。取。よ。し。と。の。と。く。法。系。中。式
述。之。の。の。取。向。よ。あ。り。あ。り。花。の。を。記。し。と。く。

源由式とせらまはし。清色ひとし。撰
げと賜と付る。後巴法師。本式連云。真
のわらま。わらひる。延引。終よありし。
今よ式と。清の寺。毎月。晴日。法系。本
式連。款あり。面十句。うら。古也。と。物。後。り。
叔又。所。佛。坊。と。申。女人。愛。家。乃。ら。め。為。家。
乃。直。前。為。相。の。母。也。君。連。又。人。ま。り。海。と。本。
赤。門。院。四。条。と。申。て。身。乃。上。子。也。為。家。死。を
乃。初。ら。り。ま。の。國。細。川。乃。庄。と。阿。仏。よ。ゆ。つ
甲。と。う。ま。り。と。為。氏。他。版。よ。う。り。て。相。伝。

せらまはし。阿。仏。と。せら。乃。た。め。よ。德。倉。へ
下。向。の。ま。り。あ。り。あ。る。よ。う。ら。り。路。を。名。あ。と
お。り。て。文。の。ま。り。の。ま。り。と。ま。り。あ。ひ。わ。た
と。お。り。の。神。五。月。十。六。日。あ。り。と。ま。り。と。ま。り
よ。う。ま。り。の。ま。り。あ。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り
と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り
○め。ら。り。の。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り
免。よ。う。ら。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り
○免。よ。う。ら。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り
撰。の。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り
撰。の。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り

伴ありく。波ありよめさうれ。海上よりくまらん
げん待り。まじんぐら。活趣真。花よかん
たるそえ。思ひからまじうら。時よ状え
中乃来は。後山乃お祭。さうの也ん
たごよ。老老え。け祭よもよ。され。〇こ
毛め。で。お。さ。や。い。は。乃。う。う。ふ。こ。と。た。る。後
山乃父や。口とら。ゆりぬ。は。え。さ。う。禱
名寺乃紅祭。さご。や。と。お。ひ。け。寺。入
し。境。地。縁。ま。こ。り。昔。け。寺。の。趣。よ。お
本乃お祭。一本。あ。ら。う。や。け。も。ら。ら。た。お

奇よお母くうも。た。り。是。と。こ。を。かん。ま
く。り。た。れ。と。げ。ま。な。を。尋。る。所。は。本。を
乃。趣。よ。古。来。乃。楓。一。本。あ。り。二。祭。も。お。祭
せ。じ。と。常。祭。ま。よ。い。こ。と。あ。ら。う。ま。い。づ。わ
け。趣。の。楓。古。寺。乃。ら。ん。お。邊。せ。ら。り。と。打。禱
〇の。め。乃。え。の。祭。の。儀。ら。う。父。も。あ。と。独
こ。と。や。り。た。れ。を。老。僧。趣。乃。母。ら。り。に。を
し。が。是。と。雲。旅。人。の。南。寺。た。り。め。て。一。見
と。知。れ。う。り。後。向。乃。ら。う。と。う。う。が。よ。う。紅
祭。乃。子。細。祭。知。あ。ら。じ。や。と。り。お。老。老。祭

て。うれを昔。鏡倉中納書為相の世に
乃お葉とらんく。いつあて。びり
時るらん。あさう。びり。乃もみらるる
こと。あぐめあひ。い。げ。越乃。概お。越せり
といへを。老僧。あさく。猿人。い。や。い。く。え。南
寺乃。古。あ。と。ま。く。せ。あ。ひ。う。り。び。あ。で。よ
付て。いつ。ま。あ。り。為。相。也。今。そ。ま。り。せ。り。
時。あ。乃。あ。い。と。う。こ。あ。ひ。一。翌。年。う。り。け
概。お。葉。せ。と。ま。あ。い。と。て。毎。年。び。あ。く
秋。と。さ。く。皆。人。も。と。ま。い。ん。あ。り。知。よ。

後乃者一人び寺へ。乃。ま。り。紅。葉。乃。ら。れ
と。ま。あ。い。と。う。こ。あ。ひ。一。翌。年。う。り。け
概。お。葉。せ。と。ま。あ。い。と。て。毎。年。び。あ。く
秋。と。さ。く。皆。人。も。と。ま。い。ん。あ。り。知。よ。
つ。と。ま。あ。い。と。う。こ。あ。ひ。一。翌。年。う。り。け
概。お。葉。せ。と。ま。あ。い。と。て。毎。年。び。あ。く
秋。と。さ。く。皆。人。も。と。ま。い。ん。あ。り。知。よ。
乃。お。葉。と。らん。く。いつ。あ。て。び。り
時。あ。乃。あ。い。と。う。こ。あ。ひ。一。翌。年。う。り。け
概。お。葉。せ。と。ま。あ。い。と。て。毎。年。び。あ。く
秋。と。さ。く。皆。人。も。と。ま。い。ん。あ。り。知。よ。
乃。お。葉。と。らん。く。いつ。あ。て。び。り
時。あ。乃。あ。い。と。う。こ。あ。ひ。一。翌。年。う。り。け
概。お。葉。せ。と。ま。あ。い。と。て。毎。年。び。あ。く
秋。と。さ。く。皆。人。も。と。ま。い。ん。あ。り。知。よ。

三ノ中

一時にば本らんよ思ひもやうぐく山に人
まうよりね古寺乃を遊よ。しんじんきても
みらせむとらうとく妙なる徳ありよわら
るべし功成るもげて見たりぞくハ夫の
とくふあるもこゝにまゝとらんども後ハ紅
葉せむと徳あり。楓乃もくよ。うらうと見
えとく。こけけもやうみ失ぬぞまじり。ま
葉乃紅葉と。いひあ。うせり。葉敷。ふ
ぞ思ひかんねむの秋乃及ま遠も。げ一本花
乃白ひよと。うあり。又昌休深もて。な

山に校乃。おまむむとせし。まじり。これ山
い。南寺のり乃時代。惟人乃建立。まむく
つ。を徳り。給へ。位。候。て。く。氏。列。六。浦
の。馬。や。う。全。山。稱。名。寺。ハ。人。五。八。十。九。代。名
山院乃。正。字。文。永。年。中。よ。わ。ら。う。と。後
後守。平。船。氏。美。時。の。う。と。あり。後
美。時。と。稱。名。寺。殿。と。う。り。し。と。用。山。ハ。栗。田
海。大。和。尚。あり。南。寺。乃。本。号。ハ。南。東。寺
師。慈。氏。や。ら。う。初。年。内。院。の。教。主。たり。
惟。人。う。げ。か。と。け。の。得。度。に。ま。じ。り。づ。れ。乃。と

毛ぐくろ。枝きりの慈恵とくろ。あつろ。あつろ。あつろ。あつろ。
 又。備まもの本きり。大乗教主の釈迦如来。阿
 彌如來。さうの十大弟子。前後とくろ。こめ。
 たな。よ。廻り。う。か。む。せ。あ。む。せ。や。め。く。
 徳のまのの伝法。乃。よ。そ。の。ゆ。ひ。ひ。と。ま。ぐ。こ。と。
 おめたへ。して。祇園。元。舎。の。儀。式。と。か。ん。ろ。
 へ。似。ろ。り。由。乃。ぞ。ん。あ。く。よ。あ。ろ。り。と。云。ま。れ。
 わ。う。た。り。あ。り。げ。因。は。仏。金。利。と。慈。あ。た。
 へ。星。の。弘。法。大。師。元。生。さ。つ。ど。の。た。め。唐
 國。ら。り。傳。來。し。や。ま。の。國。家。生。由。よ。ま。

並し。ゆ。あ。と。か。た。の。先。徳。相。傳。し。て。比。澄
 乃。か。そ。と。か。り。あ。り。阿。弥。陀。院。乃。し。
 あり。美。時。徳。所。と。う。も。の。日。報。辨。言。じ。も。へ
 多。の。指。せ。り。あ。界。堂。浄。地。を。ま。前。丈。の。堂
 隆。梯。を。ま。切。経。堂。是。が。く。あ。り。切。経
 と。舟。よ。伝。と。ひ。幸。へ。垂。ふ。し。と。り。ま。り。業
 時。の。る。息。死。時。と。々。乃。る。息。負。死。又。も。三。代。お
 二百二十三部。五つ。と。さ。た。う。せ。ん。さ。な。南。浦。へ。悪。心。と。是。よ
 千四十七卷。是
 見。行。乃。野。也
 上。り。つ。

千四十七卷。是
 見。行。乃。野。也
 上。り。つ。
 何。の。り。あ。鏡。一。巻。の。目。録。も。も。負。死。と。今

法後と号つともと化んたり。南寺乃法
 として。八幡又なる。現世無比の流らうひ
 あつて。あまのまもし何の。中絶と尋ねまほ
 らく。世界の教主。後生清浄土の
 んぐえんなり。実時。南寺と修造せくる時
 の。あるごとく繪馬と。ぬゐり。んせられり。
 東よわらうと。雲堂。佛堂。庸院。佛坊。流
 雲。池。庭。をよ。ふよ。儀。テ。堂。指。荷。の。や。し。る。所
 よ。別。齋。坊。に。十九院。た。め。り。ま。こ。家。傍。廿四室
 う。ご。金。堂。と。べ。う。う。と。南。大。門。よ。三。ま。と。安。五

こと。ぞ。ま。令。剛。力。ま。ら。ち。う。ひ。と。初。る。お。天。竺
 よ。ひ。と。ら。り。の。あ。る。ま。ま。あ。す。あ。ら。り。の。太
 み。わ。り。二。五。を。の。く。ち。う。り。て。い。ら。く。縁。が。ら。く
 へ。ま。く。む。く。千。佛。の。け。う。が。う。と。ち。り。て。門。内。前
 よ。わ。ん。と。あり。今。乃。三。ま。是。なり。佛。座
 の。ち。儀。儀。の。め。功。徳。い。ふ。え。ん。千。佛。と
 や。さ。ま。波。句。と。ら。う。今。剛。乃。ら。う。三。室
 と。た。ら。う。ら。う。カ。ま。ら。う。ひ。法。教。よ。般。養。の
 儀。令。の。二。八。の。長。邪。力。銀。と。あ。ら。う。ひ。業。所
 の。ま。や。う。と。う。六。十。二。の。夜。や。ら。ま。と。う。ま。

五九中

三三

皇帝乃とごもこあり揚貴妃本縁とわ
 らうしてな別あつこの文よとらりあり
 不思議乃子細らと今南寺乃宝物とと
 なる人月とがどろろ。安者かんんを
 祈ぐふびお乃寺宝わげくろそふるう
 じごまきたせらごり時うり教字のま
 後皆とてたごやう。大門乃まごんり
 よ一観念怒乃眼も天テ是とためと。三
 系次乃分ひよんおたうなごとう肌る。免
 よ今乃勢よくら。風よふまご。ご。橋本

のたろるごも。らん。毎は潤をながす
 後りありひね。東老け物後と安。テ。以と
 南寺乃宝物たとお。感徳肝よめ。と
 園東琴ぬの夷寺。と雅次也。板又。と
 乃紅葉のつれ。お。名所と。教人。と
 圃乃。源山と。名。て。お。ひ。と。ま。し。の。ま。に
 今。ま。と。今。ま。と。一。ん。せ。ご。り。し。ん。ん。ん。ん
 乃。の。浦。と。と。海。士。人。が。あ。り。名。所。と。は。は
 奇。人。と。あ。る。と。い。ふ。ま。今。あ。ひ。知。く。ま。した。り

○兼根志のんしつ乃事
 乃の今ある老尚書西園のんぶやとらざ
 一はととまも兼根山とらえとらて宿
 一は美たたり兼人南所ク乃乃兼根たんで
 とみんと宿毎一まうらうびつらまことあを
 きた昔相撲少田系らり伴豆の三橋を
 の乃中一人家たり。梳人を乃の山坂と
 うえあひしと兼根の樽現わされ
 あひ老翁は現下。び亦は乃とじし
 ぶ下乃兼人よ件乃だんじとわらあひ

ぬ後を所あまこりびと綱一ゆだ
 んこと兼人よあこらる日出と食とられ
 乃のつれやじ乃の事とゆ来ありあり
 と後まじ。兼老も件乃だんじと買て道
 中乃のりまことああぬび米乃兼人。後
 友まあられひひとりことよとらつひだ
 この文字と句乃よまよとて。○ま
 ほうらの乃乃。初をまくと兼人あられ
 ことの美のしと兼と。はしとらと逆縁あ
 ら兼麻山金剛王院へ系宿せり。ま
 ろん中
 二十六

りえんくたつとくも^{かまきねのち}難^た矣^り池也^るあらた^り
 といふ山^まと^こ所^かに^ある^るも^し言^はれ^たる^月日^新と^わ
 として^カ漸^にま^の生^られ^死乃^の海^にま^ろん^とく^とく^と波^に
 りんた^うう^乃あ^らう^をま^しく^ごう^とま^えら^うも^の也^り
 なる^文殊^師利^弁より^くあ^らう^りま^して^流生^と
 げ^どく^あん^どう^のお^のの^教と^名付^園東^寺乃^乃
 勇^寺也^文慈^{元年}八月廿八日^鑑倉^{將軍}
 教^根よ^しの^く池^かり^の念^いあ^らふ^乃所^{なり}
 洗^らり^湖乃^とし^は私^とう^うん^運年^とす^いら^う
 也^當社^をの^ひら^んる^もや^舞乃^後ま^とと^也也^を

池^遊福^乃事^也古^記よ^かん^くら^るも^思ひ^か
 ぬ^りね^雲乃^前終^りけ^るる^南社^開山^の満^ち
 乃^上人^知る^安貞^{二年}戊^子十^月十^七日^平
 刑^神社^仏園^中火^災と^して^南山^の三^十ノ^ノの^の
 本^神田^御守^の

又^百余^年に^例あり^とも^法教^の時^代
 小^條氏^の身^奉時^のけ^んと^りり^よ是^と
 と^だん^とし^る志^のあ^らひ^急國^防前^司親^實乃^の
 と^{して}修^造日^十月^廿八^日上^棟と^もと^そ

乃^鴨乃^社の^長也^東國^へり^り海^乃
 乃^鴨乃^社の^長也^東國^へり^り海^乃

号^九條^入乃^法律^也
 元^年録^下乃^白
 頼^朝乃^難乃^夜
 千^二條^乃乃^事
 政^事乃^乃乃^事
 世^三乃^乃乃^事
 少^健乃^乃乃^事也

乃中

乃中

まうとくがどるうれ。後宮石龜の海はらだ
めらうげ。張壇乃水。写しものひたをうら
まうとくたうらたよまじだ。うらまら乃ゆも
海。あつせとせああし。いりやそ。法級な
家。此井でよ。今うらりの思ひうられあ
し乃海のあつしあぐま。神よまうせそ
とよあつ。まじだ。いり海とあゆ海
家。此乃中。美都乃海。あまのまら
げ。船根乃海。よげえありや。二國うげと
中。みたのうらと。祿せりげ。奇乃らうら

かよは海うり。東のうら。あひ伊豆の國あ
ゆ。海とあゆ集。いり海と相換乃
内。えらもたうり。げ。祝あゆらあ。板又家
船のげい。うらが待。まじらうらまらあ
ら。富士ぐん根。よらうら。まら。まら。三
列乃あ。よあ。と。と。他まらうり。げ。山海二國三
國。よひらうら。の。祿。と。なる。名。あ。や。と。と。だ
里乃翁。あ。ま。と。富士。三。國。乃。う。ら。ら。と。と。ら
つた。奇。の。の。河。乃。あ。ま。と。と。と。と。船根のあ
海。と。二。國。の。中。よ。あ。ま。と。と。相換乃國。よ。ら

どろろゆ。小と推と。犬よ付ぐ。お乃のる也。
いりり。又後撰。根根。と。し。是。数。く
ま。い。伊。豆。乃。海。也。真。乃。小。海。也。彼。乃。よ。る
ん。も。と。よ。あ。り。り。び。弁。れ。ら。お。遠。せ。り。伊。豆
乃。海。也。根。地。よ。り。り。ま。ん。と。ご。ご。真。乃。小
海。と。讀。り。れ。た。伊。豆。の。國。小。乃。海。也。と。讀
ま。つ。ま。た。の。是。柄。也。根。地。と。ま。え。ん。也。中
を。り。り。三。海。と。り。り。は。河。乃。國。浮。海。也。
て。伊。豆。乃。海。分。ん。ゆ。り。根。又。箱。根。地。と。ま。え
ん。と。小。回。原。よ。付。ぬ。ま。さ。ご。伊。豆。乃。海。大。海。

か。ご。ぞ。分。ん。え。ん。と。け。身。人。箱。根。地。と。も。通
ら。じ。と。て。史。傳。へ。と。く。よ。ま。ら。る。又。弁。せ。又
ま。ま。と。書。ら。り。ぐ。た。る。よ。や。と。い。む。ご。ご。ま。り
ん。ま。と。あ。や。り。ん。乃。弁。物。造。と。て。わ。い。な
た。れ。ば。弁。也。總。倉。右。大。長。と。ま。え。ん。也。五。集
ま。ま。乃。せ。ら。る。ま。ご。ご。名。也。種。也。と。て。あ。い
ふ。ご。ご。と。と。く。り。知。く。ん。や。ぞ。上。真。小。海
也。是。柄。也。三。海。大。海。の。ま。う。り。と。く。あ。あ。の。ド
も。乃。名。也。あ。ま。ま。と。ま。ご。ご。又。志。也。平。教。集。よ。
ま。の。ま。ま。と。く。真。乃。小。海。と。ま。え。ん。也。あ。り。と。ま。

犬鷲志乃るさ釣たのたよ。藤乃集うらう。バ
沖乃釣船と詠せしる伊豆新勅撰よ
○都よまのつとくぐらひたなく大鷲のあまふか
けらまを温みちらよくらり。是ハ備前勅撰
哉集よ。大鷲志乃るさ釣たのたよ。藤乃集うらう。バ
みハ大鷲志乃るさ釣たのたよ。藤乃集うらう。バ
周防くろくろくもく。國多のつとくぐらひたなく大鷲のあまふか
多々集うらう。伊豆新勅撰よ。藤乃集うらう。バ
たの箱のあまふか釣たのたよ。藤乃集うらう。バ
心とまのつとくぐらひたなく大鷲のあまふか

大鷲志乃るさ釣たのたよ。藤乃集うらう。バ
宮中詠天帳大鷲
夫神

依ずるがまの風流なることや。よとくぐらひ
古弁とそくしあまふか釣たのたよ。藤乃集うらう。バ
魚もあまふか釣たのたよ。藤乃集うらう。バ
つとくぐらひたなく大鷲のあまふか
○西國行脚乃事
乃る今事。西國行御とくぐらひ。尚秋
長月上旬乃比りひ民別江戸とくぐらひ
湖尾別熱田よ。同十七日よ付一着とくぐらひ
初まのつとくぐらひたなく大鷲のあまふか
なまのつとくぐらひたなく大鷲のあまふか

今國一乃。乃とて。在る。乃名。とす。つ。い。
 た。そ。ま。し。て。一。つ。ま。え。て。あ。の。一。つ。あ。人。あ。居。あ。り。
 ら。名。前。と。名。と。や。し。ま。し。わ。せ。し。り。乃。名。と。す。
 な。し。ば。徳。國。と。名。と。り。て。名。前。と。名。
 ま。し。て。あ。の。一。つ。ま。え。て。あ。の。一。つ。あ。人。あ。居。あ。り。
 今。乃。名。と。す。乃。と。て。あ。の。一。つ。ま。え。て。あ。の。一。つ。あ。人。あ。居。あ。り。
 ま。し。て。あ。の。一。つ。ま。え。て。あ。の。一。つ。あ。人。あ。居。あ。り。
 今。乃。名。と。す。乃。と。て。あ。の。一。つ。ま。え。て。あ。の。一。つ。あ。人。あ。居。あ。り。

甲。中。一。信。信。と。用。さ。す。中。中。二。自。信。と。名。
 か。り。し。き。事。中。中。三。名。あ。つ。と。名。と。名。
 し。し。中。中。第。四。初。心。忠。孝。中。中。の。あ。び。あ。つ。
 て。和。美。乃。浦。浪。と。名。と。し。て。作。る。中。中。中。中。中。
 又。抄。写。さ。す。中。中。来。暦。未。分。め。あ。つ。と。名。と。名。
 句。よ。さ。入。息。あ。つ。と。名。と。名。何。事。と。名。と。名。
 法。一。信。と。名。と。名。乃。徳。と。名。と。名。と。名。
 徳。國。一。見。乃。名。と。名。に。海。道。の。を。と。名。と。名。
 今。乃。名。と。名。乃。馬。次。乃。名。と。名。と。名。
 今。乃。名。と。名。乃。名。と。名。と。名。

三十三

三十三

がらふとだのぐさうものんよふまへりト翌三日尚よくぞろたりまふ

大の神へ宿まゐりあ社まぢ返かへもねと向むかひり。勝かち

ふり矢立やたての礎いしとねとこお

そま。深きまの神ハ東海なるの旅人と。まうまんと
打ちひねりふとくや。逆縁ふがし

あふたうと。東海とうかいなるの旅人たびびととちりあつて

柳やなぎ園の 尾列おしり上うへは祀まつと。海うみなるのをとる次の神かみのちらふひ

十里じゆり海原うみはらや。休やすむつてり。海うみの波なみのなごとの

四日市よひち 勢せい別べつ 日日にちじち。あまの市いちなる。徳とくのちらふり

三重みえ 寺てらてかたれし。あまの市いちなる。徳とくのあつる。あ

石業師いしやんし 石いしとくさばらとくさ。業師いしやんしなる。む

三重みえ 月つきやびんさうとくさし。石業師いしやんしなる。む

急山いそやま 古ふるまの松まつあり。む

葵あひろりさう。子こ年としの松まつなる地山ぢやま。新あたら代しろの

下しも 鈴鹿山すずかやま 秋あきなる。む

草くさ 昨日きのう夕ゆふあけるの雨あめ乃なあつる。あ

園地えんぢ 十九日じゅうくじゅうにち付つ園えんは地ぢなる。む

三重みえ 大おほなる。ちらふ。あ

坂さか 休やすむの酒さけとくみさく。あ

三重みえ 紙かみわご。あ

志山しやま 山やまのなまがたつる。あ

三皇 天地乃びうけしる世出うとてまき六徳しめ

水口 みづぐち みかほ参り思りあう

三重 秋乃田乃。そのつたあしらつらるしる。あはれ水口。

石倉 いしかう 大目よ付一箱一箱のりあはれ。秋乃田乃。そのつたあしらつらるしる。あはれ水口。

三重 すくもく。石倉の嵐吹送。草津の芳を。

草津 三上山 くさつ さんじやう 山若山若の嵐吹送。草津の芳を。

ゆけのや。白雪うくる三上山と。秋は雪うらる

鏡山 かがみ 山若山若の嵐吹送。草津の芳を。

曇りしたまふ。鏡乃山よきふれ。老の深あり。

朝妻 あさづま 山若山若の嵐吹送。草津の芳を。

むくろ山 むくろ うたふ雲の風ん。朝妻あはれ

湖海 うみ 山若山若の嵐吹送。草津の芳を。

とむ身や。あはれる海の水と。老乃の毒の

粟津 あしつ 山若山若の嵐吹送。草津の芳を。

ゆたなをたせ。七乃社よりけま。あはれる海の水と。

田上 たかみ 山若山若の嵐吹送。草津の芳を。

回とる。冬のちるる。あはれる海の水と。

石山 いしやま 山若山若の嵐吹送。草津の芳を。

清仏のちるる。あはれる海の水と。

勢田 せいた 山若山若の嵐吹送。草津の芳を。

いめくしと傳てて又も今らんるま。くらめめあつる。
名取と海をいふと傳へる。
大津 廿日付 皆とよ化し傳へる。
磐田の長橋

善ねらや。是るもくもくゆりひり。物走大津の。
二つ
乃一は道

あつる。ゆりまて又お坂の。園の積あり

三井寺
新やうらば

うぐいさや。志賀の浦よの夕暮れ鐘のひびきを

木幡
うぐいさ

山科乃木幡とくまてかん御だ。宇治八幡山。

友森 志よくく友とんき。
はぐく山橋

松う殺しよ。かろりてかんもく友森。平年此意。

伏見 廿二日言ふ付
るあぐりたり

かり秘せら。山原と藤よあやせん外かん此意と

十二里
休んりり。あまよあまの河何よ。
はの園へりり。あ申あつて

人ららど。何とくくん淀河や。あまに意。

神橋
橋別あつてあ付。はくあま。新道中よと
あまねあま。はの畠と家。果とかりぬ
あまねあま。はの畠と家。果とかりぬ

名色きり。は幸せは細とあり。はりれ地を。

六里
武庫
あまをきり。は幸せは細とあり。はりれ地を。

雲雲の林原と築あてく方乃。志よくくあま。

河新
かんもくくあま。

五穀山の松の音えんとてま。おとがりりせぬ。
榎 ノリ 廿三日付 湯本より三輪の程まふ
多くとえん

らめくと。さひお湯の三輪の神今もあつる。
池 チ **徳** とく **若** わか 日所谷の名
夫岸不遠之 一如の心と程号

みごめ。うそいりてめ。地さうだま。あふ存在と。
赤老。たのたくれも也。まいたるもゆひんれ。まきげんたり
二七日湯治一神 廿七日あまとま

昆陽 池の端立りた

あふの池乃水も漸りてうへ氷こおりのうみ路の
諸 もろ **名** な

物もつてき。枝の露も粒うひと掃ひくひたる。
おふ乃藤原

四六 しゆ じゆ は は は は
あふ目付

秋と雲と。月もさう。波花。夏乃なつあり。
あつたよ
一首のらむ。いし。うま。あふ。と。あふ。の。浦。風。
あふの浦風

行 ゆ **車** くるま **石** いし **塔** た **立** た **ゆ** ゆ **ひ** ひ **の** の **中** な **か** か **い** い
Amur's Pavilion

四里 ゆかりあふ。びのいれとら。のりれ。あが海海さふ。
淡 あは **海** うみ **池** いけ

次つぎの浦や波もまづけき。夕日ゆふひ影なる川もあふ。
淡 あは **海** うみ **池** いけ

明 あ **石** いし
備列

子鳥この浦の音ねなよくり。初はつてまごころもて。松まつを。
あふ。あふ。あふ。

芳乃海の沖乃河每言ぬらや。我信こころ。
三犬女浦 ミヌメウラ ふせゆらん

うそよだふらんぬめの浦の海聖ゆ松こころぬらや。
慶田社 ウラタノヤ 年とへわん

鳴尾 ナグツ ちるる 子早振神乃ぬらや 慶田とや 振のりぬらや 難たのま海

いそぎく。娘の姿やきうう。そよあつぬらや。
阿久乃河 アキノカ 阿久乃河 あつぬらや あつぬらや あつぬらや

いぬの姿やきうう。あつぬらや。
三津 ミツ 又津津乃津あつぬらや あつぬらや あつぬらや

津の國乃。三津の海松風をそ。志乃下波よ。
難波 ナニ 子乃の鳴也

尾濤 オノ 十日も付是るや あつぬらや あつぬらや あつぬらや

三重馬乃さる。尾濤なるものり。あつぬらや。
大坂 オオサカ 十日付一音 あつぬらや

一里 まごり記もま波なるめり。湍河が入舟の。

しじらうじ しじらうじ けみ文字と句の上 あつぬらや あつぬらや あつぬらや

しじらうじ。あつぬらや。
あつぬらや あつぬらや あつぬらや

一里 石鳥井

永仁三年午年。慈悲立すいおくる。きんこくは釈迦
りたり。いふとく見れど。釈迦如来傳法輪は高
極まふ。東門中んとちうり。中野道内筆。石鳥井

何者

海人何者とてとてつめ藤のつらと
みと様終

一里

伊弉 大和 葛城 日

任吉の浦よりとをとりん海を伊弉よつぐ。
首塚の炭

博

三國の境をとりとや

五重 知さるる。取とと今ではの國や。河内泉の
さうひるる

石仏

紀別 十二日付。石佛立ちのぬ

うに記るる國とちりれたぬとや。さしあるたの
仏なるん

四里

まろろと跡 ちぬ也。猿の影をさく。任吉

きのあや。さしと跡の林兼よる。木のし猿を

橋中 十三日付

冬もらん

夕より暮。神使送る河風よ。しえとてまうとれ

四里

さし山(の)ちる雲のちり。人使なり。橋中の霜
け中る。さあ坂のよ。茶なを。ちりま。是を。
ちる茶なとちり。と下乃介。茶をさうはち

さ水もく。坂よちる家まで。上下れ人

三野 紀別

十四日付

ちやくとれ

まど割る。石と守ぬる山。深よられと。

十七日付。大和國。戸立山。付。中宿り。あるトに
わひて。高戸立山と安。わやと。無ト。たれ。解きく

六里 げ山后所也。古言よの大和なる布留の郡の戸立山。考うよとある。きごころびありとあり。考うとまを前を隣り。わり。さまたた。きごころびかや抄動して。今うわうされを。けす六山通りうう。来春まで待てる感悟も我意でねあ

三里 いふのうらにまぬの月の外とと。いさき山
若野 大和

初瀬 のさる嶺よか教白雲の冬を標と。
新迦山嶽 月 一釈迦。二富士と。さるううよ。ぬはしつる

天上天下。唯我獨尊。のらとね祈

待乳 十七日付

二里 天の上天グ下たご。しれひり。たつとく。りとも。
ひる釈迦の山嶽
又 又常と對して
布留は教よ

三里 唐乃。又つものいそたてつり。うしう。大和の國り。
時 谷よある。在あののら。およ。考うとねの
山あり。右峰さる山なり。ね祈

名よたがよ。谷の峰でんわがれ。さるまのさる
葛 葛乃。あまたあびく。浮雲を標と。乃

七里 白雲の。かすらぬ。衆いあう。初ど。天の山ぞ。
高天 人やんらん

初瀬 十八日付
入念の。鐘か。とうに。え。す。ゆる。ひ。ひ。だら。の。標。や。

二里 右河名
小初瀬の標や。

二重 二本乃杖に柱ありあひかんんと右河をこり。
三輪 年とあるれ

三重 三輪の山に柱よりあつた杖と云ふは
御事あり

二重 乃言す。佐野のともしに高きありりる音よ
石上 在る寺よ言ふ
さそいせん

石上ありあし柱ありれは在る寺也。
二重 布留 神杖よ言の移りて
名のあり

石上あり乃杖来りて移りて
紫良 十九日付三笠山とねこなり
きしゆあり

あまごつてあつてまよたる心とば三笠の山に

二上 二上 三笠山よりいりて三笠の山に
紫良 杖よりいりて三笠の山に

二重 三笠山 杖よりいりて三笠の山に
杖よりいりて三笠の山に

散ある三笠山乃山の指とぞ初もみらとぞ
通ひらき言はれりて言の尾とせは

神南備 杖よりいりて三笠の山に
杖よりいりて三笠の山に

杖よりいりて三笠の山に
杖よりいりて三笠の山に

冬これハ紅葉散と名ニ山村藤原の妻の

津山村 けわつりよ古藤多し。花の 及公あつす

二里 武士乃たふは乃たありや。家ひりし。

玉水 玉水乃たふは乃たありや。家ひりし。

ふもあぐ。孫や井心玉水のわらわ。

玉川 田ひやう

一巾 釣まじり。宿りよ井心乃玉川乃。風吹まじり。

長池 廿一日宿し。昔より。池と。 神心ええわ

二里 橋福せし。有明月のさゆる。水と。長池乃あり。

伏見 紅葉と秋冬よる。長池乃あり。

三里 紅葉せし。季秋よめど。控て又冬より。東と

系 十月廿二日付 乃る伏見山

○ 舟と山と。拈て。行くと大内や。言葉乃。林邊と。

と。口号。落中。海外乃。名。前。回。後。あり。なく。

乃る。周。博。乃。ひ。ご。り。笑。花。乃。の。ひ。げ。三。十。音。

ま。よ。氣。り。就。音。と。音。な。る。ふ。対。勝。と。音。

さ。た。洞。一。つ。り。と。年。也。是。ハ。音。あ。る。あ。る。人。立。

と。さ。あ。あ。ん。と。回。た。老。人。言。て。是。ハ。植。義。天。皇。

乃。又。王。子。一。品。式。教。也。葛。原。親。王。九。代。後。胤。後。波。

守。正。盛。孫。刑。部。忠。盛。御。後。了。了。了。了。了。了。了。了。

事侍前守あり。時鳥羽院乃法親徳長
 考院とて三十三名の法堂と造を。あふ
 一平一辨乃親善とよふらる。げを徳書とて
 天養元年辛亥三月十三日如法師乃佛法
 有難こ。貴徳百人法親のあんだとあり。
 徳縁ぐんらんのだうぞく。らんご乃神と志
 法自事法感乃あまらる。あむ乃法堂と
 げ給ひ。法親乃あひひり。いしあり。信
 心乃方の毛。うごらる。あはれあまらる。と
 勅定あり。乃師礼願乃句よ。病除。衆心除。

身心安系とくだう。うふとあへ行む。そむ
 一とてあまらる。即洛中洛外よひご。一時のる
 了。洛中るんどの病者。と下男女。二万三千
 人病愈たり。うらる。ゆ。い。じ。寺乃。美名と平
 會寺と名付あひらる。律定法自事。えんかん
 了。たふをあひ。高座よとて。忠業と刑
 勅。あはれんせ。家。や。残。り。う。け。ん。志。や。う
 に。但。え。の。乃。あ。ま。を。下。さ。ま。ま。し。う。あ。忠。業。ハ。相。事。夫
 申。の。法。事。と。あ。り。あ。う。中。比。六。部。乃。任。長
 是。う。と。く。あ。ま。下。あ。乃。と。て。侯。勢。乃。あ

影中

四

一 方人か何れものたむ記乃抄方ハ希有
 也。東本門院の十六夜記鴨の長明が海乃
 孫次記。こまきらるる末乃世の人乃記びとあれ
 甲。孫よもやしと前記のどるなる書
 けらる。西國孫次記。さくく。片たるく
 く。つあは後たり。顔淵喟然歎曰。仰之弥
 高。鑽之弥堅。云々。ぐんえんハ顔回あり。孔子
 乃一の事みせ。さつせんともなげくらもあま
 げらたうく。さつせんともなげくらもあま
 しようふだんともなげくらもあま

されど秘伝。あつてり。さつせんともなげくらもあま
 へあつるん。と乃。度傳あり。ゆさつせんともなげくらもあま
 いた安うらんど。もこのも。わふげとだき
 さいあつた。せの。さつせんともなげくらもあま
 ともなげくらもあつた。と云前句。あつてり。さつせんともなげくらもあま
 と。さつせんともなげくらもあつた。と云前句。あつてり。さつせんともなげくらもあま
 におともなげくらもあつた。と云前句。あつてり。さつせんともなげくらもあま
 て。つあは後たり。顔淵喟然歎曰。仰之弥
 花乃方のため。と云前句。あつてり。さつせんともなげくらもあま
 みる。さつせんともなげくらもあつた。と云前句。あつてり。さつせんともなげくらもあま

...
東平三の塚とて。大にあり。基あり。びん様
の定もと。果々る。塚乃よあり。若く木を
伐り。くさる。びくと。落る。あつた。南校よ。巢
と。うけ。弱也。風よ。いづひ。ゆる。ま。う。ぶ。と。あ。と
思ふ。習ひ。あ。う。く。ま。さ。る。ん。ん。中。ぞ。う。ね。ぬ。乃
よ。社。あり。百。合。草。も。あ。大。臣。後。立。あ。り。あ。り
尸の。岩。小。切。付。こ。ど。り。中。の。人。業。視。あり。若
根。教。可。獲。乃。あ。と。は。は。の。ご。た。る。若。元。限
や。あ。く。あり。是。の。勢。持。あり。び。乃。ゆ。ま

あ。や。と。同。じ。里。乃。義。言。と。昔。漢。滅。天。皇。は
寧。百。合。草。着。大。臣。殿。じ。り。退。治。と。て。
弘。仁。七。年。丙。申。二。月。八。日。京。都。と。打。立。け。り
乃。と。う。く。と。り。教。可。獲。乃。あ。に。あ。ま。あ。居。と。日
中。乃。院。ら。く。ら。が。沖。と。く。悉。じ。ら。り。と。は。り
が。い。ま。ひ。一。百。一。邪。臣。乃。と。う。ら。こ。と。も。て。
大。臣。あ。い。確。と。獲。と。あ。う。れ。の。あ。み。だ。り。な。と
り。あ。ま。あ。い。あ。ま。ん。え。と。う。あ。ま。の。こ。の。い。だ。よ。若
し。あ。ま。あ。い。あ。ま。の。う。け。る。み。だ。り。と。う。あ。ま。あ。い
と。う。あ。ま。あ。い。と。う。み。だ。り。あ。ま。あ。い。あ。ま。あ。い

めしとあり。其の河みとくみどりなり。其の河
 あつらふ中。古記の事あり。其の河みとくみどりなり。
 せよふらだ。古記の事あり。其の河みとくみどりなり。
 ね。大后殿。大神と神と。其の河みとくみどりなり。
 年。三浦十八日。大神。海上と。其の河みとくみどりなり。
 て。かん。後りたる。其の河みとくみどりなり。
 う。乃。治幸あり。其の河みとくみどりなり。
 神。乃。鉄の弓矢。其の河みとくみどりなり。
 たり。古記の事あり。其の河みとくみどりなり。
 武士。甲曹と。其の河みとくみどりなり。

古記の事あり。其の河みとくみどりなり。
 三浦。其の河みとくみどりなり。
 今。三浦の。其の河みとくみどりなり。
 東。其の河みとくみどりなり。
 記。其の河みとくみどりなり。

世の致意世よらえ 疎果なるはなは前よ
月録とわけて二あり飛しゆるされた件
乃後山の趣真跡り交ふ家書らる半ね
新後橋遠よの好夕よらんまてあそおまじ
者の浦より幸の阿波海鴨山と極せしえ
し道よたぐりてあひおたりけ侍の飛らし四
時らまじよらりてあつた中よま
乃春乃海鳥致由の花登るよまよ
なまじど。弟よりしき曲とむらうとどげ葉風
うしよまらひし春ははむんぬるまわこが

道と浮立雲のむらへ極今らじ三春乃
しこしむらひのむらへ書りやうゆらふ一日の多
なることととらる古入乃云葉おらあされ
たわんのおるまらんたのこしは城ヶ崎今ら
らんとまら徳老あ小舟よぬまよこわらう
て入に後色よまふ控花よらんや急らんま乃
中毎よなむらうひとく侍とうとあまのあ
しとまらまらと吹らむらう人色ありの機あまら
ひあ指して系竹乃勢とまらと舞まよま
せらあ色ありの醉とまらと今わらうら

うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と
うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と
うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と
うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と
うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と
うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と
うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と
うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と
うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と
うらとらうあはるまきあり。也ケイ岩根と

たまもいりま
玉藻たまも藻いりま葉まとほまんとく。海うみをへとり下
甲かあひたり。あはるまきあり。也ケイ岩根と
物ものよのひげ井い糸いと。ほらとく。花はな並ならと。子こ毎まいよ
うげあひたり。たたままののおおびびつつはは花はなめく
ど物ものほらとく。花はな並ならと。子こ毎まいよ
しととと泳いぜぜららりり。源げん成ていははははくく。物ものななどど。名な
庭てい中ちゆうとく。あありり。ああししとと。あありり。板いた又また皆みな人ひと。破やぶ
名なくく。乃の極ごく真まよよ。ららつつやや。花はな並ならと。子こ毎まいよ
くく。乃の極ごく真まよよ。ららつつやや。花はな並ならと。子こ毎まいよ
ははららつつ。或ある説せつよよ。くく。乃の極ごく真まよよ。ららつつやや。花はな並ならと。子こ毎まいよ

五九

二

糸とてしらすめて袋のやうにおみたる物
 又うらふ矢くまをめぐりしとらざれたる
 入集よ○こころの後立あり後葉
 けむれぬとてあつた。沖へおまじと
 徹せり。眼にうつる。あつた。あつた。
 め乃しらすこと注せり。教長ゆきあつた。
 とらぬ。あつた。あつた。あつた。あつた。
 云らぬ。○こころのあつた。あつた。あつた。
 ぬ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 色。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

たちりとも云。然る。奥義抄のあつた。あつた。
 海士乃しらすこと注せり。あつた。あつた。
 竹みくくあつた。あつた。あつた。あつた。
 従ふ。あつた。あつた。あつた。あつた。
 今こころのあつた。あつた。あつた。あつた。
 らぐ川へ海人を山人たりてあつた。あつた。
 法ハ知し。今乃世の人ハ繩あつた。あつた。
 あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 とらぬ。あつた。あつた。あつた。あつた。
 葉乃。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

是と二所よりせんとあつた。備前入所多
 へぐ。長谷川より前より海へ舟を遣はし
 一平の船に兵を南境より遣はし海軍と
 られ。鑑念お軍。家臣を海軍とす。法
 在真行義重とす。待奇。常系
 乃海遊の魚はくもぐ。安貞三年
 己丑二月廿一日。彼岸より南へ伊豆の國迄
 湯山乃侍。三邊へ来光乃。乃よ
 よよのく。教十艘の舟とす。海軍
 法はくもぐ。麻呂後とす。南境乃海軍

駿河乃前司。つひて海軍とす。乃よ
 て也。件乃くもぐ。乃よ。乃よ。乃よ
 そりひの夕陽乃ひらり。乃よ。乃よ
 勢を脱浪乃。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ
 従法あり。備前。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ
 乃ひ。陸軍。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ
 い志。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ
 史我朝。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ
 どの。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ
 南海。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ。乃よ

つらみ。しんしんしんとして潮波しんしんしんしん。
既くえくなみりくたる眺ながらむ。せよらるるわんせ誠まこと
よ。南方みなみ。じし海界うみをさるるもの。あつた
まけ系風けいふう。真感まかん乃あまらりふ。三浦さんぼ海
や。南みなみの海うみ乃千里せんり中ちゆうぞく。あつたの波なみ乃立
はぐくしんしんと口くちじま。猿さる乃んをなぐ
さるるなり

順礼物語中之終

鹿嶋の海

110X
157
3